

現地に合わせた車作り  
フィンドレー大学奨学生レポート・機械工学系（3月）

NBO (Nissin brake ohio) :



修理された機器の一つ

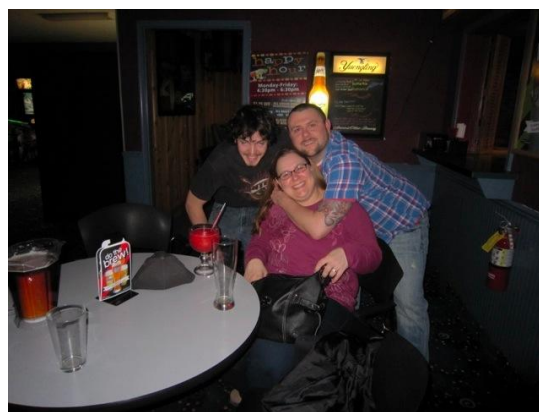
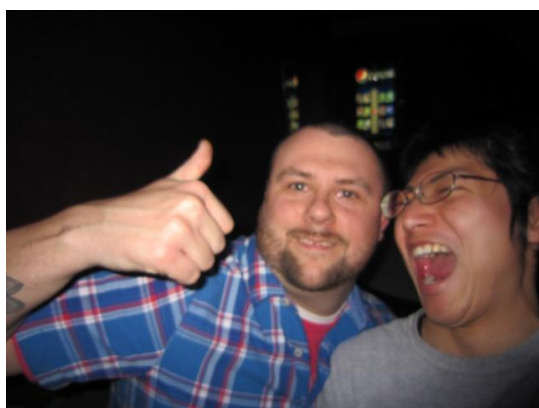
私達の行ってきたリサイクルプロジェクトが実践段階に移ってきました。今月は、4月から予定している実験の準備を行っています。その多くは修理と動作点検、また実験に用いる材料を集めています。

30年前に購入したものもあり長らく使用されていなかったためか、プロジェクトに用いる機器の多くは修理もしくは交換する必要がありました。その際に沢山の技術者の力をお借りしました。その中で、1人の電気技術者の行ったことがとても記憶に残っています。ある機械には電気系統の故障があり動きませんでした。私には全く分からなかったため、アメリカ人の電気技術者に頼みました。彼もまた初めは分からなかったのですが、ひとつひとつ抵抗や電圧を測ったところ、電圧のないおかしい部分を見つけました。そこを辿ると、裸のままのコードを発見しました。そのコードに絶縁処理するなど色々試したところ、電圧が戻り、最終的に機械が動作しました。どうやら、漏電が原因だったようでした。

私は原因がはっきりするまでマニュアルや本で調べがちで、実際に試すことを2の次にしてしまいます。しかしこの例のように、原因は分からないけれど手を動かして試してみると、それが次のヒントを与えてくれることがあります。今回、機器の故障とその修理を通して、自分のアプローチを省みることとなりました。

実際の修理では、分からないことばかりです。まず、手探りながら自分で調べ、やはり分からないので専門の方に聞くということの繰り返しになります。私は日本を出る前に、私の通う大学の教授から「つつがなくいかない事こそ勉強になる」と助言をもらいました。今がその時だと考え、一つでも多くの技術・知識を日本に持ち帰りたいと思います。

会社の方との付き合いを通して：



会社の方とボーリングにて

会社や遊びを通して、アメリカの方は仕事と遊び、どの場面でもメリハリのある行動をしていると感じます。

3月の初めに、いつも技術を教えて頂いているアメリカ人の方達とボーリングに行く機会がありました。その時、その方達は仕事が終わった直後だったのですが、その日休みであった私以上に楽しみ、ストライクを出した時には、仲間と手を取り合って嬉しさを共有していたほどでした。この後さらに、会社の方の家にお邪魔させてもらい、共にゲームをして盛り上がりました。どの方も本当に活発だと遊ぶ度を感じます。

会社では逆に、そうした方々が集中して仕事をする姿を見えています。ボーリングを一緒に楽しんだ方は生産技術の担当で、機械の故障が報告されるとすぐにその場へと向かいます。機械の故障が重なる忙しい時期には、一つの機械の修理を終えると即座に次の機械へと移っていました。手を休めずに作業し仕事を終えていく姿が、なかなか手の進まない私とは対照的で刺激される毎日です。

ついだらだらと過ごしてしまいがちになりますが、仕事、勉強、遊びそれぞれを充実させ、残りの日々を過ごしたいと思います。

友人宅にホームステイ：



作られたカップ（左）と、作業風景（右）

3月2日から7日まで春休みを利用して、友人の家に泊まらせて頂きました。私のほか、2人が泊まりましたが、家族の方にはとても親しみやすく接して頂き、自分の家以上にゆったりと過ごすことができました。

友達の家は、Tシャツのグラフィックデザインや印刷を行っています。それらの仕事に興味を持った私は、印刷の仕事にも少し触れさせて頂きました。ここではさらに、カップのデザインをさせてもらえることができました。初めてホームステイさせてもらったときは自分の好きなように過ごしていいと言われ、何をしたいかわからずに緊張ばかりしていた事が今となっては懐かしく思えます。

現地に合わせた車作り：



ホンダ・イーストリバティ工場

今では NBO を含め、多くの日本企業がアメリカで現地法人化し経済活動を行っていると言われます。今回それを肌で感じたのが、ホンダでした。今ではホ

ンダ車は、アメリカ人により生産され、そして消費されています。ホームステイ先のお母さんもホンダに勤めており、ホンダ車の良さを笑顔で話されていました。驚いた事に、ホンダ工場の敷地内には病院・スポーツジム、銀行まであり、現地で働く方の生活を支えているそうです。また、ホンダのディーラーへ連れて行ってもらい、アメリカでのホンダ車を見る機会がありました。実際に見ると、同じ車種であってもアメリカのものはサイズが一回り大きく、ボンネットの辺りは日本のものより押し出すような形でした。アメリカには広大な土地があり、各家庭は塀を持たないせいか、車も大きくでき、またそうすることで安全面に配慮されているのだと思われます。このようにホンダはアメリカに浸透しており、ホンダ車はアメリカの文化・好みに合わせ生産されています。そしてそれは日本企業と製品がアメリカに受け入れられている証でもあると感じます。品質の良い商品を作ることと同様に、相手の生活に合わせたものづくりの重要性を今回のホームステイで感じました。